

分科会 1 資料

機能別にみたボランティアの人材育成について

目次

1.分科会での論点	1
2.災害ボランティアの役割・機能について	2
(1) 災害ボランティアの機能について	2
(2) 災害ボランティアの役割について	3
(3) 災害ボランティアに求められるスキル等について	4
3.ボランティア活動に関する育成実例	6
(1) ボランティア活動に関する機能に対する育成実例	6

内閣府（防災担当）

防災ボランティア活動検討会（第4回）

平成17年10月30日

1. 分科会での論点

分科会での議論について、想定される論点を整理した。

(1) 災害ボランティアの役割・機能について

ボランティア活動が活発化する復旧時を対象に議論する

- ・ 災害ボランティアセンターの運営にかかる役割、機能
- ・ 被災者からのニーズに対応するボランティア活動
- ・ 被災地間の情報共有をするボランティア本部の役割、機能
- ・ 被災地外からの後方支援、広域支援の役割、機能 等

(2) ボランティアの機能・役割に対して求められるスキルや特技

- ・ 災害時の状況、自治体の対応、被災者の状況等についての知識
- ・ 一般的なボランティアの対応に関する知識やスキル
- ・ 被災地域の状況やニーズを掘り起こすための知識やスキル
- ・ 効果的な支援活動をするための連携、コーディネートスキル 等

(3) ボランティアの機能・役割を果たすための育成方法、その現状と課題

- ・ 育成可能なボランティアの機能、役割
- ・ 育成するための講座、プログラムの構成
- ・ 災害現場の状況を再現するための企画内容
- ・ 講座の企画運営の工夫 等

2. 災害ボランティアの役割・機能について

(1) 災害ボランティアの機能について

災害時のボランティア活動とその支援活動は多岐にわたる。そのため、考えられる一般的なボランティア活動とその支援活動の果たす機能を整理した。

図1 災害時のボランティアコーディネート活動の機能整理（一例）

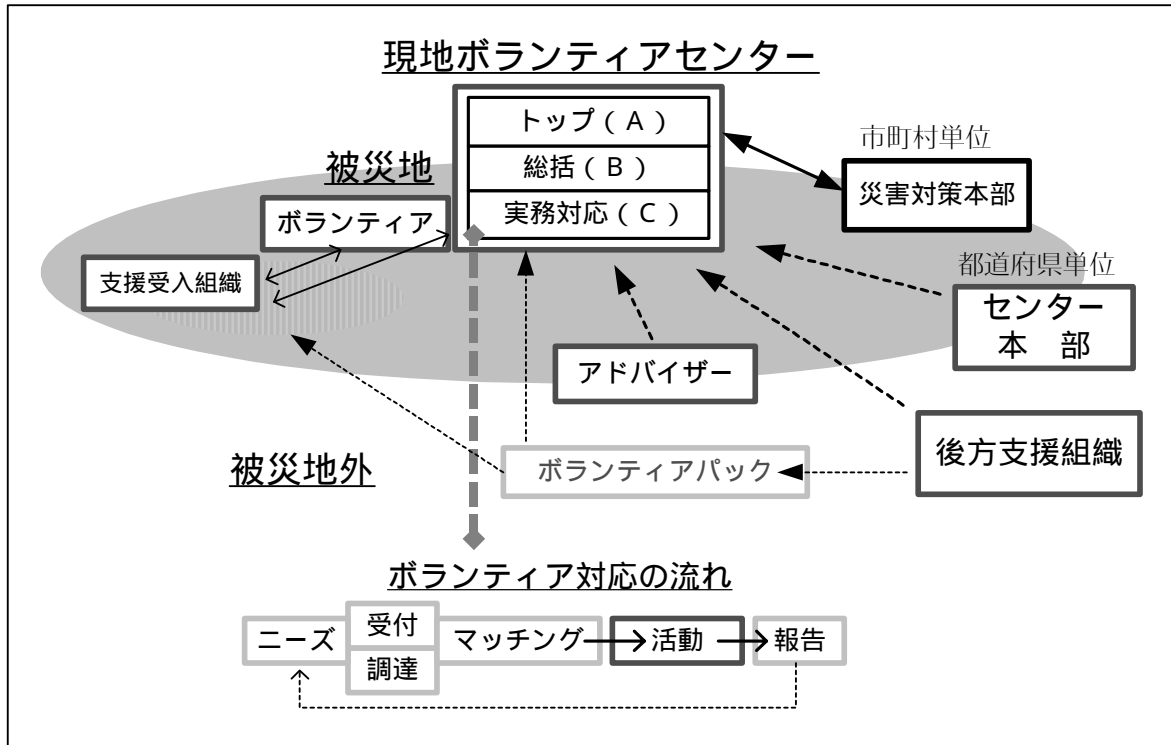


表1 災害時のボランティアコーディネート活動の機能整理（一例）

		概要
センター運営	【A】トップ	・ センター運営の責任者。様々な意志判断、責任をとる立場になる。
	【B】総括	・ センター全体を見渡してまとめる役割 ・ センター運営の方針や成果を自ら評価・検討する役割。
	【C】実務対応	・ 総括のもと、センター運営の実務を担う役割。
アドバイザー		・ ボランティアセンターの経験があり、センター運営のためのアドバイスを行う。 ・ 被災地外からの支援やボランティア団体との調整を担う。
ボランティア		・ 被災者のニーズに対応し、ボランティア活動を担う。
支援受入組織		・ ボランティアニーズの把握、センターとの調整などボランティアを受け入れる地域側の調整を担う。
センター本部		・ 災害が広域にわたる場合、複数のセンターとの情報共有、総合支援、連絡調整を行うことや被災地外からの総合窓口として機能する。
後方支援組織		・ 被災地が複数の自治体にあるなど、広域に及ぶ場合、全体の情報収集、整理、総合窓口として機能する。

(2) 災害ボランティアの役割について

前述の一般的な機能にあわせて、それぞれの果たす役割と一般的な担い手を整理した。

【センター運営】

- ・ 一般的に、市町村社会福祉協議会、市民団体、JC、地域外からのボランティアが関わる。
- ・ ボランティア対応、外部との調整、ネットワーク化など総合的にセンターを運営し、被災者支援を推進する機能を持つ。

表2 災害時のボランティアの果たす役割とその担い手の一例

	役割	担い手
センター運営 【A】トップ	<ul style="list-style-type: none"> ・ センター運営の判断、組織の方針等の意志決定 ・ 被災地内外からの支援に対する調整 ・ 災害対策本部との調整 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉協議会理事長、事務局長 ・ 青年会議所代表者 ・ 自治体関係者 等 <p>地元で顔のきく人が望ましい</p>
センター運営 【B】総括	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人事総務、財務（資金調達を含む） ・ 運営計画づくり、活動方針の検討 ・ 物資調達、管理 ・ 情報収集、情報発信、情報管理 ・ ボランティアの安全衛生管理 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉協議会職員 ・ 自治体関係者 ・ 青年会議所関係者 ・ 地元NPO、ボランティア団体 等 <p>組織運営の経験者が望ましい</p>
センター運営 【C】総務対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアの受付、オリエンテーション、マッチング ・ 運営のための資料作成 ・ 被災地のナビゲーション ・ 物資管理の支援 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉協議会職員 ・ 地元NPO、ボランティア団体 ・ 被災地での活動経験のあるボランティア 等
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被災地内外からの支援に対する調整 ・ センター運営のためのアドバイス等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO、ボランティア ・ 社会福祉協議会職員 等
ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ・ ニーズに対応した被災地でのボランティア活動 ・ センター運営の一部支援 等 	誰でもできる
支援受入組織	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被災地のニーズ把握 ・ センターとの調整 ・ ボランティア活動の支援 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自主防災組織、自治会役員 ・ NPO、ボランティア団体 ・ 民生児童委員 等
センター本部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被災地外からの総合窓口 ・ 複数のセンター間の連絡調整 ・ 被災地の情報収集、発信 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都道府県社会福祉協議会職員 ・ 自治体関係者 ・ NPO、ボランティア団体 ・ 青年会議所関係者 等
後方支援組織	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被災地が広域に及ぶ場合、全体の情報収集、整理、総合窓口 ・ 被災地への情報提供、情報支援 ・ 物資、資金面での支援 ・ ボランティアの派遣 ・ 被災地を支援する団体間の調整 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都道府県社会福祉協議会職員 ・ 自治体関係者 ・ NPO、ボランティア団体 ・ 青年会議所関係者 等

(3) 災害ボランティアに求められるスキル等について

前述の一般的な機能にあわせて、文献や既存のマニュアル、関係者からのヒアリング等を参考にし、それぞれ求められるであろうスキル、ノウハウや蓄積について整理した。

表3 災害時のボランティアに求められるスキル、ノウハウ、蓄積の分類一例

	求められるスキル・ノウハウ・蓄積	
センター運営 【A】トップ	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関とセンターのコーディネート ・リーダーシップ、的確な指示 ・合意形成能力 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係組織間のコーディネート ・論理的、客観的な意思判断
センター運営 【B】総括	<ul style="list-style-type: none"> ・関係組織間のコーディネート ・現状分析能力 ・運営の見通し、被災地の状況にあわせた計画、判断 ・論理的、客観的な意思判断 ・災害に関する基礎的な知識 ・支援可能な団体、組織とのネットワーク 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップ、的確な指示 ・合意形成能力 ・会計、経理の基本的な知識
センター運営 【C】実務対応	<ul style="list-style-type: none"> ・現状分析能力 ・合意形成能力 ・多くの人が集まった状況への対応経験 ・一般的なコミュニケーション能力（人の話を聞く、適当な意思表示等） ・自己管理、健康管理能力 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的、客観的な意思判断 ・トラブルへの対応経験
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関とセンターのコーディネート ・リーダーシップ、的確な指示 ・合意形成能力 ・複数の地域間の情報、人的なネットワーク ・支援可能な団体、組織とのネットワーク 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係組織間のコーディネート ・論理的、客観的な意思判断 ・災害に関する基礎的な知識
ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ・自己管理、健康管理能力 ・一般的なコミュニケーション能力（人の話を聞く、適当な意思表示等） ・一般的な社会のマナー 等 	
支援受入組織	<ul style="list-style-type: none"> ・自己管理、健康管理能力 ・一般的なコミュニケーション能力（人の話を聞く、適当な意思表示等） ・一般的な社会のマナー 等 	
センター本部	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関とセンターのコーディネート ・リーダーシップ、的確な指示 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係組織間のコーディネート ・現状分析能力
後方支援組織	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的、客観的な意思判断 ・運営の見通し、被災地の状況にあわせた計画、判断 ・複数の地域間の情報、人的なネットワーク ・支援可能な団体、組織とのネットワーク 等 	

表4 災害時のボランティア活動に関する機能からみたスキル、ノウハウ、蓄積の分類一例

ボランティア活動に関する機能 求められる スキル・ノウハウ・蓄積	センター運営			アドバイザー	ボランティア	支援受入組織	センター本部	後方支援組織
	【A】 トップ	【B】 総括	【C】 実務対応					
関係機関とセンターのコーディネート								
関係組織間のコーディネート								
リーダーシップ、的確な指示								
現状分析能力								
論理的、客観的な意思判断								
運営の見通し、被災地の状況にあわせた計画、判断								
合意形成能力								
災害に関する基礎的な知識								
会計、経理の基本的な知識								
複数の被災地での支援経験								
多くの人が集まった状況への対応経験								
トラブルへの対応経験								
複数の地域間の情報、人的なネットワーク								
支援可能な団体、組織とのネットワーク								
自己管理、健康管理能力								
一般的なコミュニケーション能力(人の話を聞く、適当な意思表示等)								
自己管理、健康管理能力								
一般的な社会のマナー								
被災地の状況に合わせたアドバイス								

凡例 / : 特に求められるスキル・ノウハウ・蓄積 : 求められるスキル・ノウハウ・蓄積

3. ボランティア活動に関する育成事例

(1) ボランティア活動に関する機能に対する育成事例

災害時のボランティア活動に対して、全国で様々な育成のための講座等が実施されている。その中でも代表的かつ特徴的講座、また育成に関連する取り組みとして考えられるものを下記にあげる。

下表は、各講座について講座内容からボランティア活動に関する機能別に整理したものである。

表5 災害時のボランティア活動に関する機能からみた育成講座等の一例

ボランティア活動に関する機能 育成の実例	センター運営			アドバイザー	ボランティア	支援受入組織	センター本部	後方支援組織
	【A】 トップ	【B】 総括	【C】 実務対応					
人と防災未来センター『ボランティアコーディネーターコース』								
全国社会福祉協議会『災害ボランティアコーディネーター養成研修会』								
ボランティアコーディネーター協会『ボランティアコーディネーター研修会』								
三重県『災害ボランティアコーディネーター養成講座』								
山梨県『防災ボランティアコーディネーター養成講座』								
大分県『災害ボランティア体験型研修会』								
名古屋市『防災ボランティアコーディネーター養成講座』								
【参考】『防災・危機管理 e-カレッジ』								
【参考】『ハローボランティアネットワークみえ』								

凡例 / : 直接想定しているもの、 : 想定内にあるもの、 : 関連があるもの

人と防災未来センター『ボランティアコーディネーターコース』

特徴	本講座は市民活動や災害救援の経験がない市民への教養講座ではないことを明記しており、全国で実際に災害救援・復旧活動に参加してきた市民活動者・団体を対象としている
目的	救援活動のノウハウを持つ民間団体を、被災地に効果的に導入するための知識を収集・整理し、それらの「知」を実践に活かせる人材を育成することを目的としている
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉協議会、NGO/NPO等市民団体、生活協同組合、行政職員 ・ 今後、災害救援活動に従事することを想定しているNGO・NPOなどボランティアな民間団体のスタッフ ・ 災害時の活動調整・資源調整に関わることを目指している人 ・ これまでに後方支援を含む、災害救援・復旧活動の経験がある人 ・ 何らかの形で地域活動をしており、本コースで得た知識・ノウハウを地元を持ち帰って展開していきたいという意欲を持っている人 ・ 定員は20名(原則として先着順)
期間	年1回実施(3日間連続、平成17年度は11月28~30日に実施予定)
講師/ プログラム概要	<p>【1日目】</p> <p>講義「災害時における協働の形成」</p> <p>講義・見学「阪神・淡路大震災を語り継ぐ、考えるー防災未来館の見学」</p> <p>パネルディスカッション(1)</p> <p>「その直後、激動の時間をこう迎えたー阪神・淡路大震災の経験に学ぶ」</p> <p>見学・意見交換「阪神・淡路大震災の被災地に学ぶー見学・意見交換」</p> <hr/> <p>【2日目】</p> <p>講義「災害時のボランティアコーディネート」</p> <p>演習「ボランティアコーディネートの事例研究」</p> <p>講義「災害ボランティアセンターとは？」</p> <p>演習「災害ボランティアセンターに求められるもの」(2)</p> <p>討論「ふりかえり」</p> <hr/> <p>【3日目】</p> <p>講義「災害ボランティアの意義と可能性」</p> <p>講義「災害・防災・減災とボランティア」</p> <p>パネルディスカッション「地域での日常活動が生み出す『事前防災』」</p> <hr/> <p>【講師】</p> <p>立木茂雄氏(同志社大学/DRI 上級研究員)</p> <p>栗田暢之氏(レスキューストックヤード)</p> <p>大江浩氏(横浜 YMCA)</p> <p>語り部ボランティア他</p>

備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本年度で開講 3 年目 ・ 平成 16 年度の参加者は 27 名。ボランティア団体や社会福祉協会・行政からの参加が 7 割を占めている ・ 平成 16 年度では、被災者（地）支援の前線となる「災害ボランティアセンター」の設置・運営、及びそこでのボランティアコーディネーションをメインテーマとし、さらに「コミュニティにおける事前の減災対策」も重要課題として位置付けながらカリキュラムを編成している <p>【注目すべき点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主催者である人と防災未来センターだけではなく、神戸で震災復興を担ってきた市民活動者や、全国で災害救援活動を行ってきた NPO・NGP 団体が企画段階から参加している ・ 参加・体験型ワークショップを多く設けることによって、現場に役立つ知識やノウハウの習得が可能なプログラムとなっている。また、演習を通して多くの災害救援の経験をもつ講師から直接知識を習得することができる
企画運営のプロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画運営は、人と防災未来センターと全国で災害救援活動に従事してきた NGO・NPO、及び神戸の震災復興に関わる NGO・NPO が、現場の経験をふまえながら企画段階から協働で創り上げている
スキルアップの効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災ボランティアセンターの様々な形とその展開過程を学ぶ ・ 支援の対象となる被災者・被災地のおかれた状況を的確に把握し、実情に合わせて支援活動を組み立てていく視点を養う

【 1 パネルディスカッションの内容】

タイトル	「その直後激動の時間をこう迎えたー阪神・淡路大震災の経験に学ぶ」
講師	コーディネーター：山口一史氏（ひょうご・まち・くらし研究所） パネリスト： 黒田裕子氏（阪神高齢者・障害者支援ネットワーク） 桜井誠一氏（神戸市市民参画推進局長） 馬場正一氏（ひょうごボランティアプラザ） 山添令子氏（コープこうべ）
習得内容	阪神・淡路大震災直後に救援活動を行ったパネリストが、組織としての対応や被災地のニーズの汲み取り方法、救援資源のさばき方などをそれぞれの立場から話す
生成物	なし
進め方	・ パネリストが震災当時の救援活動について報告する ・ コーディネーターによる質問にパネリストが応答する
場所	阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 「防災未来館」5階プレゼンテーションルーム

【 2 演習の内容】

タイトル	「災害ボランティアセンターに求められるもの」
講師 (進行役)	中川和之氏（時事通信社） 浦野愛氏（レスキューストックヤード） 西田又紀二氏（レスキューストックヤード）
習得内容	・ 演習 1 は、コーディネーターとしての実践的なボランティア対応のあり方についての演習であったのに対して、演習 2 ではセンター本部のスタッフとしての裏方的な役割について話し合う ・ 具体的には、災害ボランティアセンターを運営設置するには、どのような機能が必要かをテーマとする。センター設置の場所、人材やネットワーク、資機材や資金、コーディネーターとしての概念などが議論される
生成物	・ 参加者の意見を KJ 法によって整理した模造紙 ・ 議論の内容をパソコンで記録し、それを複写したフロッピー
進め方	・ 受講者を 3 つの班に分けグループディスカッションを行う ・ ディスカッションは KJ 法を用いる。各自の意見を書き出した付箋を模造紙に貼り付け、それをグルーピングしながら議論する
場所	阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 「防災未来館」5階プレゼンテーションルーム

全国社会福祉協議会『災害ボランティアコーディネーター養成研修会』

特徴	ボランティアセンターへのかかわり方の違いによってグルーピングし、それぞれの立場における役割や課題についてディスカッションしている
目的	各地の社会福祉協議会や災害救援にかかわるNPO、学識経験者と協働して、災害時にコーディネーターとして中核的スタッフとなって支援に入ることができる人材を育成することを目的としている
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害ボランティアセンターの全般的な運営にかかわった経験のある人 ・ 防災ボランティアセンターにてコーディネーター業務に携わった経験のある人 ・ 今後、災害ボランティアセンター支援にかかわることになることが見込まれる人 ・ 募集人数は200人
期間	年1回実施（3日間連続、平成17年は11月16～18日に大阪にて開催予定）
講師 / プログラム概要	<p>【1日目】 基調講義「被災者本位の支援のためにー被災地支援活動の10年からみえてきたこと・学ぶこと・生かすべきこと」 オープニングパネル「被災地支援・災害ボランティアセンターの基礎知識」</p> <p>【2日目】 セッション1「災害ボランティアセンターの立ち上げ期」 セッション2「災害ボランティアセンター活動中盤期～閉鎖期を見通す」</p> <p>【3日目】 まとめのパネル「各セッションの報告/共有/課題整理」 全体会「閉鎖からはじまる復興支援 地域主体の支援へ」 まとめの講演「一人ひとりの暮らしを支える災害支援にむけて」</p> <p>【講師】 渥美公秀氏（大阪大学大学院人間科学研究科助教授） 阿部陽一郎氏（中央共同募金会企画広報部副部長） 室崎益輝氏（独立行政法人消防研究所理事長）他</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度がはじめての開講となる <p>【注目すべき点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2日目のセッションでは災害ボランティアセンターへの従来のかかわり方に準じて、あらかじめ4つのグループにわけている。それは、G1-これまでに災害ボランティアセンターの運営全般にかかわった経験のあるグループ、G2-これまでに災害ボランティアセンターでコーディネート業務に携わったことのあるグループ、G3-今後防災ボランティアセンター支援にかかわることが見込まれるグループ、そしてG4-都道府県・指定都市社会福祉協議会の職員のグループである
企画運営のプロセス	各地の社会福祉協議会や災害救援にかかわるNPO、学識経験者などから災害ボランティアコーディネーター研修開発委員会を編成。このメンバーを中心としたワーキンググループによって企画運営が行われる
スキルアップの効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時に被災地の災害ボランティアセンターにおいてコーディネーターとして中核的役割を果たせる人材を養成 ・ 災害時に有機的に機能するネットワークの構築をめざし、参加者の関係づくりを行う

ボランティアコーディネーター協会『ボランティアコーディネーター研究集会』

特徴	様々な分野におけるボランティアコーディネータを対象とした研究集会であること。 また、プログラムを「基礎・入門編」と「研究・実践編」とに分けており、学びたい内容によって受講を選択できるようになっている
目的	本研究集会の目的は、様々な分野で活躍する市民参加の支援を行うプロとして、ボランティアコーディネーターが共通して追求すべき価値と求められる役割についての共通理解をつくるための拠り所となること。そのために、活動分野や立場を越えた市民参加を支える専門家同士の活発な議論の場として、知識や技術をよりいっそう磨く場を提供している
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害救援などのNPO・NGOで、ボランティアのコーディネーションを担当しているスタッフ ・ ボランティアセンター、NPO・NGO支援センター、国際交流協会のボランティア担当スタッフ、ボランティアコーディネーター ・ ボランティアコーディネーター又はボランティアコーディネーションの研究及び研修・養成にかかわっている人
期間	年1回実施（3日間連続、平成17年度は2月25日～27日に実施）
講師/ プログラム概要	<p>【分科会 災害時のボランティアコーディネートの内容】</p> <p>講義「災害救援とボランティアコーディネート」 演習「災害救援ネットワークをつくる」 演習のまとめ</p> <p>【講師】石田易司氏（桃山学院大学教授）</p> <p>【ファシリテーター】桑原英文氏（兵庫県社会福祉協議会ボランティアセンター職員）</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本研究集会は災害救援だけではなく、保健・福祉、教育、国際交流・協力、まちづくり、文化・芸術、環境など、様々な分野におけるボランティアコーディネーターを対象としている ・ プログラムを「基礎・入門編」と「研究・実践編」の2つに分けており、実績年数によって受講内容を選択できるようになっている「基礎・入門編」は、ボランティアコーディネーションに関する基本的な知識や技術、考え方をしっかり学びたいという新任担当者を対象としている。「研究・実践編」では、コーディネーションに携わる方たちが現場で抱える様々な課題について、その解決、改善のためにどうすればいいのかを学びあいながら力量を高めることをめざす ・ 上記は災害ボランティアコーディネーターに関する分科会。参加者は社会福祉協議会7名、市民団体1名
企画運営のプロセス	日本ボランティアコーディネーター協会によって企画運営される
スキルアップの効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時の混乱の中におけるコーディネートの重要性を知る ・ 災害時に求められるコーディネートについて知る ・ 平常時からの心がけについて知る

山梨県『防災ボランティア・コーディネーター養成講座』

特徴	修了者に対して修了証を交付し、市町村や防災関係機関が周知できるようにしている
目的	災害ボランティアコーディネートについて実践的な研修を行い、受講者が地域で講師を務められるような防災教育のノウハウを提供することを目的としている
対象	地域住民
期間	年3回実施（各回毎の単独参加も可能）
講師/ プログラム概要	<p>【第1回】 災害ボランティア・コーディネーターの“達人”から学ぶ 講義「災害ボランティアと防災ボランティア」 講義「災害時要援護者への支援」 演習「地域の課題を考えよう」 演習「今できることを考えよう」</p> <p>【第2回目】 県・市町村等防災対策と防災教育ノウハウ、各地域での防災ボランティア活動のあり方 講義・意見交換「国や山梨県、市町村の防災対策（体制）の現状と課題」 講義「地域における防災教育の行い方（実践ノウハウ伝授及び教育ソフトの提供）」 分科会討議 全体会・発表「各地域における災害ボランティア活動のあり方、及び防災関係機関との連携について」</p> <p>【第3回目】 日本赤十字社山梨県支部「防災ボランティア講習会」 講義「災害時における赤十字の役割と行政との連携」 実技「非常食炊き出し、及びロープワーク」 実技「応急手当の実際」 実技「災害ボランティアセンター開設とボランティア受入・派遣訓練」</p> <p>【講師】 栗田暢之氏（レスキューストックヤード）/ 県消防防災課 / 日本赤十字社山梨県支部</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3回全て受講した人には「山梨県災害ボランティア・コーディネーター養成講座」修了証を交付する ・ 修了者は県災害ボランティア・コーディネーター名簿に記載し、市町村や防災関係機関に配布、周知させる
企画運営のプロセス	山梨県消防防災課と日本赤十字社山梨県支部が主催
スキルアップの効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害や防災の基本知識の習得 ・ 受講者が地域で講師を務められるような防災教育のノウハウを提供する

大分県『災害ボランティア体験型研修会』

特徴	大分県社会福祉協議会が主催する災害ボランティア研修会の参加者を含めた準備運営委員会を立ち上げ、この委員によって企画運営がされていること
目的	地域住民としての防災意識を根付かせながら、日常の地域連携づくりの重要性を啓発することを目的としている
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民 ・ 社協災害ボランティア登録者 ・ 自治委員・民生委員 ・ ボランティア・市民活動登録者 ・ 定員は 100 人
期間	年 1 回実施
講師 / プログラム概要	<p>【研修会内容 平成 15 年度】</p> <p>体験ゲーム</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害時の対応方法等学習ゲーム 2. 情報伝言ゲーム（ジェスチャー/絵伝令） 3. 火災避難リレー 4. 救援物資リレー
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 13 年度から開催、4 回実施 ・ 3 回目から体験型訓練を取り入れる ・ 平成 16 年度は「水害」をテーマとする
企画運営の プロセス	10 名程度の準備運営委員によって企画運営される
スキルアップ の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害についての知識をクイズやゲーム形式で学ぶ ・ より多くの地域住民に対して、地域づくりへの参加意識を高める機会としても位置付けられている

三重県『防災ボランティアコーディネーター養成講座』

特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考委員によって、その年の受講生を選考する ・ 前年度の受講生は企画だけではなく講師を務めるなど、自分たちの講座を自分たちで作りに上げていくという経験を積み、ボランティアコーディネーターを「知る」ことから段階的に「なる」ようなシステムとなっている
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本養成講座は「コーディネーターになる」人を養成するのではなく「コーディネーターを知る」ためのもので、コーディネーターになる資質を持っているひとが、防災にも取り組んでもらうきっかけをつくりことが目的となっている ・ 三重県の広域防災ネットワークづくりの場として機能している
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平常時の防災啓発、または災害時のボランティア（コーディネート）活動に関心があり、コーディネーターとしての活動をする意欲のある人 ・ 三重県内に在住、または、勤務・在学しており、三重県内各地で開催される養成講座に出席する意欲のある人 ・ 講座開講に先立って行われるオリエンテーションに参加し、自身の思いを発言、また、小論文（800字程度）を提出する意欲のある人 ・ 前もって決めた選考委員（各地区1～2名）が作文及びオリエンテーション時の対応等を参考に第4回養成講座受講生を選考する
期間	年5回実施（第3回以外は1泊2日の合宿形式）
講師/ プログラム概要	<p>【第1回 - 1日目】</p> <p>基調講演「東海・東南海・南海地震のメカニズムと備え」 班別討議</p> <hr/> <p>【第1回 - 2日目】</p> <p>パネルディスカッション「災害救援ボランティア活動」</p> <p>ワークショップ「ボランティアセンターを作ろうⅠ」</p> <p>講座「ボランティアマネジメントについて」</p> <p>ワークショップ「ボランティアセンターを作ろうⅡ」</p> <p>防災訓練：「地震体験車」「ほのぼの灯り」「非常持ち出し品クイズ」「来場者アンケート調査」「無線訓練」「904三重県ボランティアセンターDIG訓練」</p> <hr/> <p>【第2回 - 1日目】</p> <p>講座（1）「行政の役割について」</p> <p>講座（2）「三重県ボランティア情報センターについて」</p> <p>講座（3）「ボランティアパックについて」</p> <p>講座（4）「海山町ボランティアセンターの流れ」</p> <hr/> <p>【第2回 - 2日目】</p> <p>グループディスカッション(1)「迷惑ボランティア」</p> <p>グループディスカッション(2)「オリエンテーションペーパー作り」 発表</p> <p>グループディスカッション(3)「台風23号・新潟県中越地震の被災地に何ができるか」</p>

	<p>【第3回】</p> <p>講座(1)「ボランティアについて」</p> <p>講座(2)「コーディネートって？」</p> <hr/> <p>【第4回-1日目】</p> <p>講座(1)「防災啓発講座の作り方」</p> <p>講座(2)「災害イメージを伝える」</p> <p>講座(3)「自らを知る(1) タウンウォッチングの進め方」</p> <p> タウンウォッチング「自らを知る(2) 街あるき」</p> <p>ワークショップ(1)「対策を立て、実行する 地図を使った防災講座 DIG」</p> <p>発表・意見交換</p> <p>ワークショップ(2)「最適な防災講座の構成は？」 発表・意見交換</p> <hr/> <p>【第4回-2日目】</p> <p>全体会 各地のとりくみ事例意見交換</p> <p>講座(4)「桑名防災支援ネットの取り組み」</p> <p>講座(5)「ハローボランティア・ネットワークみえの取り組み」</p> <p>講座(6)「防災ボランティアコーディネーター養成協議会について」</p> <p>ワークショップ(3)</p> <p>「防災ボランティアコーディネーター養成講座カリキュラムづくり」</p> <p>今後の活動について(各自の決意)</p> <hr/> <p>【講師】 京都大学防災研究所 教授 林 春男氏</p> <p> 鈴鹿市生活安全部防災安全課 主幹 船入公孝氏</p> <p> 県防災対策室 西川 泰弘氏</p> <p> 三重県 DVC 議長 山本 康史氏 他</p>
備考	<p>受講生を選考する選考委員は、前年度までの受講生によって構成されており、三重県下5ヶ所会場で行われるオリエンテーションと作文の内容によって選考される。平成17年度の作文テーマは「養成講座を受講する目的(なぜ受講したいと思ったのか)」である</p>
企画運営のプロセス	<p>本講座において受講者は、初年度は受講生として、2年目は講座企画者として参加しており、2年をひとつのサイクルとして養成講座にかかわっている</p>
スキルアップの効果	<ul style="list-style-type: none"> ・地震のメカニズムや防災の基礎的知識からボランティアのあり方、ボランティアセンターのしくみ、防災という観点から自らの町をみる視点作りなど、防災に関する多様な知識を得ることができる ・合宿形式で行われるため、強固で広域な防災ネットワークが形成される

名古屋市『防災ボランティアコーディネーター養成講座』

特徴	本講座の修了者は、それぞれの地域で新しく災害ボランティアを組織するなど、積極的に活動している
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域や企業などのコミュニティにおける平常時での防災活動の担い手を育成する ・ 災害時にはボランティアの受付・整理を行うとともに、被災者のニーズを把握して行政とボランティアの接点となる災害ボランティアコーディネーターを養成する
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・ 名古屋市内在住か在学中で、今後名古屋市の災害ボランティアコーディネーターとして活動していく意欲のある人が対象 ・ はがきで申し込みをした人の中から抽選で 80 人が選ばれる
期間	年 4 回実施（第 3・4 回目は 1 泊 2 日の合宿形式で行われる）
講師 / プログラム概要	<p>【第 1 回】</p> <p>耐震診断・耐震補強について</p> <p>講義 「災害ボランティアセンターの概要」(1)</p> <p>GW 「災害ボランティアセンター受付模擬演習」</p> <p>講義 「防災概論～東海・東南海地震などへの警戒」</p> <hr/> <p>【第 2 回】</p> <p>「名古屋市地域防災計画の概要」</p> <p>講義 「地域の防災力を高めよう」</p> <p>講義 「災害時要援護者の課題」</p> <p>GW 「図上訓練」</p> <hr/> <p>【第 3 回 - 合宿 1 日目】</p> <p>講義 「新潟県中越地震の学びと課題」</p> <p>講義 「災害ボランティア文化の創造～阪神・淡路大震災から 10 年」</p> <p>GW 「災害ボランティアコーディネーターを考える」(2)</p> <p>GW 「非常食による食事」</p> <p>全体討論会「平常時の活動とネットワークの重要性」</p> <hr/> <p>【第 4 回 - 合宿 2 日目】</p> <p>GW 「炊き出し体験」</p> <p>GW 「災害ボランティアコーディネーターを考える」(2)</p> <p>全体発表・振り返り、総まとめ</p> <hr/> <p>【講師】 名古屋市住宅都市局建設指導課</p> <p>栗田暢之氏（レスキューストックヤード）</p> <p>福和伸夫氏（名古屋大学大学院教授）</p> <p>稲垣文彦氏（山古志ボランティアセンター）</p> <p>村井雅清氏（被災地 NGO 協働センター）他</p>

備考	<p>【修了者の活動状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 修了者は平成 15 年度に 52 名、16 年度は 70 名となっている ・ 修了者を中心として「災害ボランティアコーディネーターなごや」が結成され、各地の被災地で活躍している ・ 名古屋市内の各区において修了者が中心となって災害ボランティア組織が結成されつつある <p>【注目すべき点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合宿形式にすることで、受講者や運営スタッフとが密に交流することが可能となる
企画運営のプロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講座の企画・運営を NPO との協働により行う ・ 内容は現場体験型の実践的なものとなっている ・ 受講者アンケートを参考にしながら内容を企画する ・ 過去の修了者が運営スタッフとして参画している
スキルアップの効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時に全国から集まるボランティアの受付・整理を行い、被災地の支援要請とボランティア活動希望者を結びつける能力を養成する ・ 過去の修了者が運営スタッフとして参加することで、スキルアップと受講者との交流を図ることができる

【 1 講義 の内容】

タイトル	「災害ボランティアセンターの概要」
講師	栗田暢之氏（レスキューストックヤード）
習得内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアセンターの設置や組織、役割などの基礎知識を学ぶ ・ 災害ボランティアセンターの担い手、行政等との協働、平常時の備えなど防災ボランティアセンターに関する課題について学ぶ
生成物	なし
進め方	講師が準備したパワーポイントによる講義形式
場所	なごやボランティア・NPOセンター

【 2 GW の内容】

タイトル	「災害ボランティアコーディネーターを考える ・ 」
講師	村井雅清氏（被災地 NGO 協働センター）
習得内容	<ol style="list-style-type: none"> 1) 実際に大規模震災に遭遇した場合、一個人としてどのような行動をとるべきかを話し合う 2) 「避難所暮らし」における救急医療の対応、仮の自治組織の立ち上げ、ニーズの整理など災害直後のあり方について話し合う（1日目） 3) 災害ボランティアコーディネーターの立場から、長期的な避難所生活の運営について話し合う（2日目）
生成物	なし
場所	名古屋市宿泊青年の家

【参考】防災・危機管理 e - カレッジ

対象	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民、消防職員・消防団員、地方公務員等 ・ インターネット上において無料で利用できる防災・危機管理に関する学習プログラム
講師 / プログラム概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般の住民を対象にしたプログラムと、地方公務員、消防職員、消防団員等を対象としたものに分けられている <hr/> <p>(地域住民)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「大地震を3日間生き延びる!」「風水害から身を守る!」-災害イメージの具体化 2. 「基礎を学ぶ」-災害に対する対応や備えの学習 <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害の基礎知識コース 2. 災害への備えコース 3. いざという時役立つ知識コース 4. 地域防災の実践コース 5. 災害時のボランティア活動の実践コース 3. 「深く学ぶ」-様々な災害に関する専門家による解説 <hr/> <p>(地方公務員、消防職員、消防団員)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域住民向けと同様 2. 「大地震に備えた責務」「風水害の教訓と対応」-地方公務員としての対応のあり方 3. 「災害応急対応」 「消防団員の方へ」
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「基礎を学ぶ」の各コース(災害の基礎知識コース、災害への備えコース等)にテストがあり、テストに合格すると希望者にはコースごとに修了証が発行される ・ 自主防災組織や学生などに対する防災教育の事業として、防災担当者が受講者の学習進捗を管理できる「e - カレッジ学習管理システム」も併設されている
企画運営のプロセス	<p>総務省消防庁では、東海地震、東南海・南海地震や南関東地域直下の地震に対して、緊急消防援助隊を強化し、消防防災・危機管理センターを整備するなど、体制強化に努めている。「防災・危機管理 e - カレッジ」は、地域の防災力を強化するための各種施策の一環として、地域住民、消防職員・消防団員、地方公務員等に、インターネット上で防災・危機管理に関する学びの場を提供することを目的としている</p>
スキルアップの効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎から応用まで、災害や防災に関する知識を手軽に習得することができる ・ 防災・危機管理に関する学習の教材として活用することができる

【参考】ハローボランティア・ネットワークみえ

対象	様々なイベントの主催者
講師 / プログラム概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベントの企画・運営を支援する ・ 当日イベント会場における臨機応変な対応を実施する（災害時におけるボランティア活動のノウハウを応用 - 主催者出展コンテンツの運営サポート、エコステーションでのゴミナビゲート、バリアフリーサービス、イベントPR活動、迷子の捜索など）
備考	<p>【注目すべき点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当団体では、災害対応もイベント支援も非日常的な状況への対応という点において共通のものだと認識し、防災ボランティアの「進化形」として平常時は「イベント支援ボランティア団体」として活動をしている ・ 花火大会などのイベントごとにボランティアを募集し、活動を通して新たなコミュニティを形成している。また、新潟・福井における水害の際には災害ボランティアとして、平常時のネットワークを活用した活動が行われた ・ 「自ら楽しみながら、他の人より率先して活動する市民」という意味で自分たちを「率先市民」と呼び、従来のボランティア活動とは異なった概念を形成している
スキルアップ の効果	多くの市民とともにいろいろなイベントの運営をサポートしながら、地域社会に新しいコミュニティを作ることを目的としている